



# 赤石

## 学校のめあて

心豊かで  
たくましく  
いつも進んで学ぶ子

TEL 25-4450 [http:// www.isesaki-school.ed.jp/kitasyo/](http://www.isesaki-school.ed.jp/kitasyo/)

## キャリア教育について

今回の学校通信では、子どもたちの将来の夢とキャリア教育について触れたいと思います。

日本FP協会というところが出している2023年の「小学生『将来なりたい職業』ランキング」によれば、男子児童の1位～3位は、順にサッカー選手・監督、野球選手・監督、医師になっています。一方、女子児童では、医師、パティシエール、イラストレーターの順になっています。男子はスポーツ選手、女子は専門的な職業に就きたいと希望している児童が多いことが分かります。また、男女とも医師になりたいと思っている児童がたくさんいることも分かります。



学校では、年2回実施する学校評価（保護者アンケート）の中に、「お子さんの将来の夢や就きたい仕事などの話題について、親子で会話をするようにしている。」という項目があります。この項目の結果は、他の項目の結果ほど高くないという傾向があります。この内容の話が頻繁に親子でするというよりは、時々、親子で話題にして話すというのが実際の所ではないでしょうか。また、スポーツ少年団等でサッカーをしていて、将来もサッカー選手になりたいと思っている子どもがいたら、親子の会話は将来の夢であるサッカー選手と言うよりは、今取り組んでいるサッカーの話題が中心になるかと思います。

少し、前置きが長くなりましたが、小学校では、自分の将来の夢に関してキャリア教育を行っています。このキャリア教育という文言は多くの方に認知されていると思いますが、何となく小学校ではあまり関係が薄いもののように捉えられていないでしょうか。キャリア教育は、子ども・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目指すもので、この育成された能力や態度によって、自らの力で生き方を選択することが可能となります。キャリア教育と言ったときに、すぐに思い出されるものに中学校での職場体験活動があるかと思います。しかし、中学校での限られた期間だけでキャリア教育が始まるわけでも、完結するわけでもありません。小学校では、入学から卒業までの6年間でキャリア教育をしっかり積み上げていくことが大切です。また、自分の将来の夢について、高学年の児童ならば漠然ながらも考えることはできても、低学年の児童は当然同じように考えることは難しいです。すなわち、子どもたちの発達段階に応じてキャリア教育を進めることが大切になります。

人は家庭、仕事、地域社会での役割というように、様々なところにおける役割を果たしながら活動することを通して、他者や社会との関わり、その関わりの積み重ねが自分らしい生き方となっていきます。

（裏面に続きます）

このように社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程をキャリア発達と言います。では、小学校では、どのようなことがキャリア発達として求められているのかということですが、文部科学省の資料では、以下の内容が示されています。

各学年段階	キャリア発達課題
低学年	① 小学校生活に適應する。
	② 身の回りの事象への関心を高める。
	③ 自分の好きなことを見つけて、伸び伸びと活動する。
中学年	① 友達と協力して活動する中でかかわりを深める。
	② 自分の持ち味を發揮して、役割を自覚する。
高学年	① 自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。
	② 集団の中で自己を生かす。
	③ 社会と自己のかかわりから、自らの夢や希望をふくらませる。

低学年のキャリア発達課題「①小学校生活に適應する」を踏まえたねらいとしては、具体的には「返事やあいさつをする。」「決められた時間や約束を守る。」「自分の気持ちや意見を伝える。」等があります。このように小学校におけるキャリア教育では、学校生活の中で子どもたちが普通に行っていることがキャリア教育の内容につながっています。あい



さつがきちんとできることや決められた時間を守ること、さらには係や当番の仕事にきちんと取り組むことなどは、子どもたちが社会人になったときに必要不可欠なことです。北小でも子どもたちの発達段階に応じたキャリア教育を推進してまいります。ぜひ、ご家庭でもキャリア教育に係わる学校生活のことを話題にしていただければと思います。

## 避難訓練がありました

10日（金）の4校時に地震により理科室より火災が発生したという想定で避難訓練を行いました。進級に伴い、教室が変わったことから、年度の早い段階でこのような避難訓練を行うことが大切になってきます。子どもたちの避難の様子を見ていて、どの子も真剣に取り組んでいました。また、校庭西側に集合したときもしっかり話を聞いていました。



よく言われていることですが、首都直下地震や南海トラフ地震とよばれる大きな地震が30年以内に高い確率で起こる可能性があると言われていています。このような大きな地震は、いつ起こるかは分からないので、子どもたちが休み時間に遊んでいるときや、学校の行き帰りでも起きることも当然考えられます。このように教員が近くにいなくても起きることが当然ありますので、そのようなときは、子どもたちが自分で考えて行動しなくてはなりません。そのためには、普段の生活のいろいろな場面において、自分で考えて行動することが大切になってきます。子どもたちには、自分で考えて行動し、自分の命をしっかり守れるようになって欲しいと思います。